

## 天国に捧げる *Row and Row!*

### ～「かっこいい」シリーズ ①～

これまで何度も子どもたちに訴えてきた「周囲から『愛され・応援され・励まされる』人間・集団」になってほしいということに加えて、「『かっこいい』人間になってほしい、『かっこいい』生き方をしてほしい」ということも、これまで、ことあるごとに繰り返し話をしてきました。

『かっこいい』という表現は、極々日常的によく使われていますが、人それぞれの価値観で見方・考え方は異なり、対象が同じであっても、人それぞれで、『かっこいい』のか、悪いのかそれほどでもないのか評価が分かれる場合もあります。『かっこいい』は、正体不明で、百面相のような不思議な言葉なのです。

今号から連作で3号にわたって、『かっこいい』をテーマにした内容をお届けします。『かっこいい』人間、『かっこいい』生き方についての本質に迫ります。子どもたちの生き方の参考になれば。

※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※

休日に新潟市のやすらぎ堤付近を通りかかると、信濃川の水面を滑るようにボートが進んでいきます。市内の高校ボート部の漕艇練習の様子です。オールを動かす4人の漕ぎ手のリズムがピッタリ合っていて、見ているこちらの気分も心地良くなります。

昭和大橋、八千代橋、萬代橋の下をくぐり、ボートはどこまでもどこまでも真っ直ぐ進んで、そのまま日本海という大海まで漕ぎ出すような勢いです。そして、ボートの流れに連動する水しぶきが何とも言えない清涼感をもたらしてくれます。

教員になって折に触れて子どもたちに話をしてきた、ボート競技にまつわるエピソードがあります。

私が教員になる前の銀行勤務時代の同期入社で、特に親しかった仲間に、某私立大学のボート部出身のAとBの二人がいました。二人とも「エイト」という、8人の漕ぎ手とコックスという舵手からなるボート競技の、大学ボート界の花形選手でした。

AはBの1年先輩ですが、事情があつて卒業が1年遅れたため、二人は同じ会社への同期入社となりました。Aは無口で謙虚でクールガイのイケメン。

一方、Aの一年後輩のBは、オリンピック候補選手にもなったほどの強靱の体力と精神力の持ち主であり、常に冗談を言って周囲を笑わせてくれる陽気なタフガイ。

静と動、月と太陽、タイプは違えど、青春の全てをボート競技に情熱を傾け、互いを認め合い敬慕し合う凸凹コンビの人間関係は、とても微笑ましく、周囲から見てもとても羨ましくありました。

そして、特に社交的なBの口から、折に触れてボートや大学時代に関するいろいろな話を聞くことは、実に楽しいものでした。

40年ほど前のことですが、その中で特に印象に残って覚えていることは、「ボートは、遊びで漕いでいると、まるで空を飛んでいるように夢心地のように気持ちがいいけど、競技として勝負かけて漕ぐと死ぬほどつらく苦しいんだよ。」という話でした。

もちろん、ボートに限らず他の競技も同じようなことは言えるのですが、一流スポーツの世界で、遊びと真剣勝負との体力及びメンタルの格差が半端ないことは、素人の私でも容易に想像がつかます。そして、漕ぎ手の人数が最も多い「エイト」は、ボート競技の中でも最もチームワークが必要とのことでした。

そして、それ以上に忘れられない話が、BがAのいない時にこっそり自分に話をしてくれた。Aにまつわる伝説的なエピソードだったので。

Aが2年生、1年生の秋、チームは全日本大学新人選手権に出場します。大会に臨む9人のメンバーは、それまでの過酷な練習はもちろんのこと、常に寝食を共にし、個々の体力・技術のみならず、勝利に不可欠なチームワークを必死に磨いてきました。3日間をわたる大会当日も、9人が同じ部屋に寝泊まりし、就寝も起床も揃えながら規律ある歩調で大会に臨んでいました。

大会初日の予選会で一敗地にまみれるも、2日目の敗者復活戦で勝ち残り、最終日の3日目、準決勝・決勝に勝利し、見事大学日本一の栄冠を勝ち取ったのです。

レース後、チームのみんなで喜びを爆発し歓喜に酔いしれる輪の中に、Aの姿だけはありませんでした。日本一になった喜びの余韻に浸る間もなく、レースが終わるとAはその場からすぐさま立ち去り、自宅に帰っていったのです。

その時、唯一事情を知るクルーキャプテンからチームのメンバーに真実が明かされます。実は、Aの父親が大会初日に亡くなったのだと。

Aは、父親が亡くなった大会初日の夜21:30の消灯後、みんなが寝静まったのを見計らって、こっそり宿舎を抜け出し自宅に帰っていたのです。そして、みんながまだ寝ている翌朝5:00の起床ちょっと前に宿舎の部屋に戻って、静かに布団に潜り込んでいました。誰にも気づかれずに。

つまり、Aの父親が亡くなったことも、Aの心中も、Aがこっそり夜中宿舎を抜け出した事実も、誰も知る余地はなかったのです。何事もなかったように大会は幕を開け幕を閉じました。ただ、その間、Aの父親が亡くなったことと、Aはほとんど睡眠時間がとれない状態で2日目の敗者復活戦の大一番に臨んでいたという事実のみを残して。

B曰く「大会中、いつもと何ひとつ変わらない沈着冷静なかつこいいA先輩でした。そして、その後もA先輩から父親の死やその時の詳細について語られることは一切ありませんでした。あの人は僕らにとっての伝説の先輩なんですよ。」

♪ エンヤコラ今夜も舟を出す Row and Row, Row and Row 振り返るな Row Row ♪ (長谷川きよし『黒の舟歌』より)